

中性子ビーム応用理工学研究室

2018年4月に発足した当研究室の2026年4月の体制は、加美山隆教授、佐藤博隆准教授、盛朋子秘書、D3（社会人）が1名、D2（社会人）が1名、D1が1名、M2が2名、M1が5名、B4が5名となっております。卒業生・修了生の就職は順調です。鬼柳善明名誉教授とは引き続き日本刀や宇宙線ソフトウェアに関して一緒に研究活動を行っています。高エネルギー加速器研究機構に戻られた古坂道弘名誉教授からは、加速器関連で色々な面白いアイデアを頂戴しています。両先生とも私達以上に元気に研究活動をしています(!?)。

2025年度は学生が学会で4件受賞しました。卒業論文の発表会でも2件の優秀発表賞を受けました。引き続き中性子イメージング、加速器駆動中性子源、中性子デバイス、宇宙線ソフトウェアに関する研究を行っており、再稼働した北大LINAC-II/HUNS-IIでの実験をはじめ、J-PARC MLF、住重アテックス、産総研AISTANS、京大複合研LINAC、理研RIビームファクトリー、北大病院陽子線治療センター、アイソトープ総合センターなどで実験を行っています。鉄鋼材料、電池材料、考古学試料、食品を含む含水素物質、宇宙線模擬、医工連携に関する実験などを関係各所と連携して継続しています。佐藤准教授の科学研究費補助金（科研費）基盤研究（A）プロジェクトが採択されたので、研究活動はさらに発展していきそうです。海外出張、海外からの来客、バドミントンやスキーなどのレクリエーションも順調です。また、アカデミックファンタジスタ事業などを通じて北大や科学技術振興機構（JST）にインターネット記事が掲載され、広報活動もさらに活発化してきています。

北大中性子関係の卒業生の皆様、機会があればぜひ研究室へお立ち寄りください。
研究室 HP（「中性子ビーム」で検索！）：<https://www.eng.hokudai.ac.jp/labo/QBMA/>

